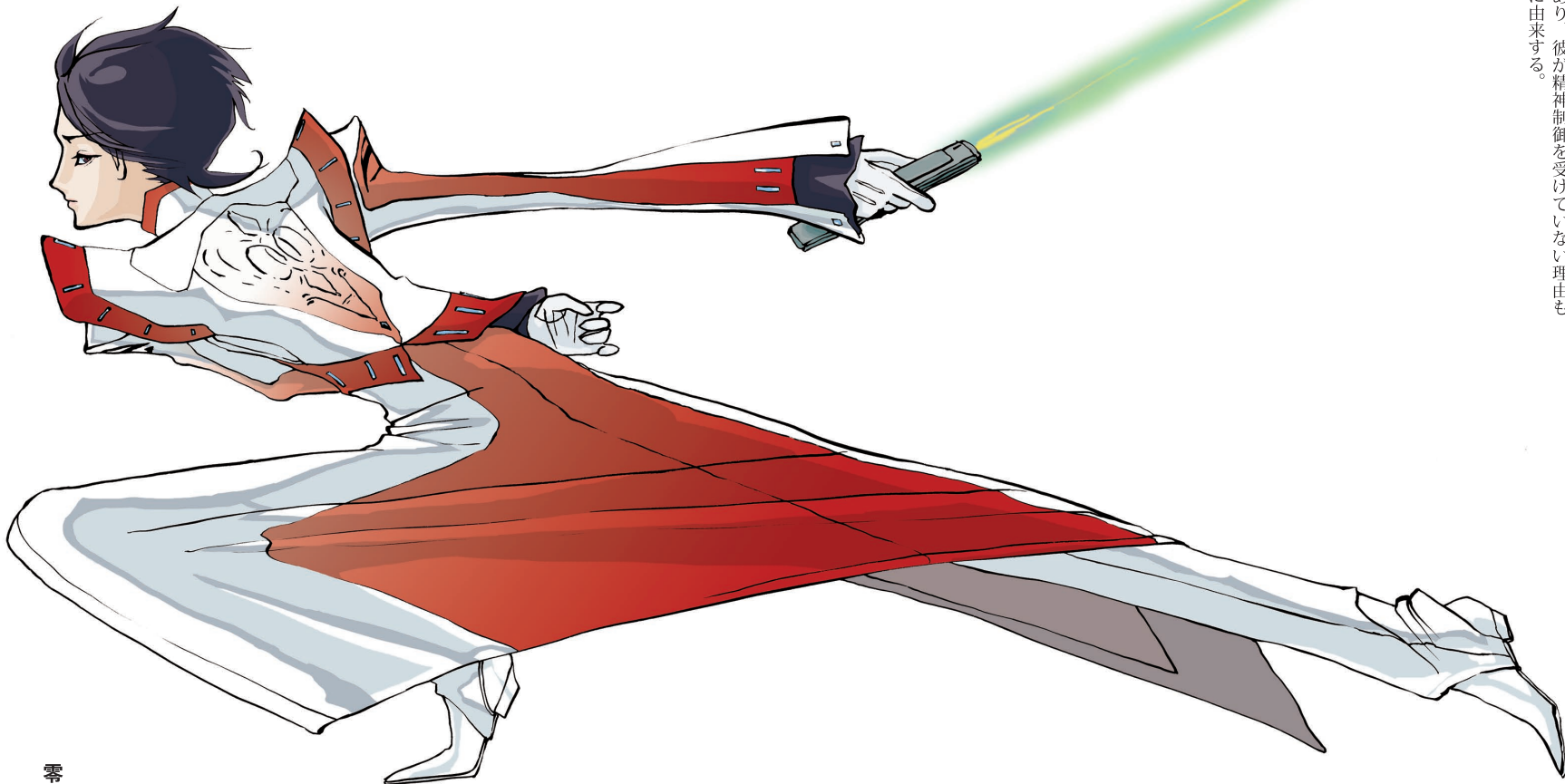


ファティマ——それは、モーターヘッドをコントロールする「騎士」のパートナーとして生み出された亜人種である。騎士と同等の反応速度を持ち、老いることのない肉体を備えたこの生体コンピュータには、人間では持ち得ない美しい容姿までもが与えられていた。

史上最高の天才ファティマ・マイト、リン・ジャクスン博士は過去にも数多くの優れたファティマを誕生させてきたが、最後に製作した「零」『彰』三匹の三兄弟には法を無視した超級スペックを設定した。ファティマの能力を表すパワーゲージ（戦闘能力・MH制御能力・演算性能・肉体耐久値・精神安定性）の全ての項目がオーバードランクである零は、騎士同様の、ともすれば騎士以上の強さを持つということになり、ファティマとしては明らかに違法・禁忌の存在である。

また、三人の兄弟の中では、零だけがマインドコントロールを外されている。つまり彼は人間と同じ喜怒哀楽の感情を持っているはずだが、FAFに身を置くまではそれが明るみに出ないよう普通のファティマらしさを装っていたため、今でも感情を表に出すことはあまり得意ではないようだ。同様に機密とされているが、零には額のヘッドコンデンサを介して雪風の電子頭脳中枢とリンクできる能力がある。これは零が設計段階からMHと対で製作されたことの名残であり、彼が精神制御を受けていない理由もそこに由来する。



零
REI

3A-3A-2A-3A-A mM-L型（成長中）

形式名 R=A=Ni 惑星フェアリイ Dr. リン・ジャクスン直接指揮下のファクトリー製
シリアルナンバー LJNi21 クリアランス VWS1
外見デフォルト レングス 182cm ウェイト 52kg
アイカラー ダークブラウン
アイコンタクト ミッドナイトブルー 90% スルー
「狂気天才科学者」リン・ジャクスンの21番目のファティマ。特殊戦総監、ブッカー少佐のパートナー。鋭利な刃物の如き冷たい雰囲気を感じ「氷の妖精」とあだ名されている。シリアルナンバーにも示されているように、日本人タイプの外見を持つ。現時点でジャクスン・ファティマの末の三兄弟の長兄にあたり、22番目の彰と23番目の元は弟である。

ブッカーは零の四人目のマスターだが、彼以外の騎士たちは零の持つ桁外れの力を畏れ、零との間に距離を置いた。しかしブッカーは零が自身の中で押し殺してきた人間と変わらぬ感情や、信じられるものは雪風のみという孤独な心を理解し、その上で彼を伴侶に望んだ。ジャクスン博士が己の「子供たち」に繰り返し聞かせてきた言葉があった。

『自分の全てを賭けても惜しくない相手は、その目で見つけなさい』

彼女の教えに導かれ、ついに零はブッカーを「マスター」と呼ぶ——自らの全てを委ねる覚悟をもって。マスターとは、ファティマにとって唯一人の主人を表す言葉である。

最初は頑なさの抜けなかった零だが、まるでファティマに対するものとは思えないブッカーの振舞いに時に戸惑い呆れつつも、次第に彼の真摯さに絆され心を開くようになる。特殊戦という環境に身を置いてからというもの、雪風を得たこともあり、ひとまずは心穏やかに過ごしているようである。

最近の雪風の戦闘データから、ジャムが雪風と、雪風と対の存在である零に、他のMHに対する以上の関心を持っているのではないかと推測がなされている。データによればいまだ成長中だという零の身にはまだ、彼自身ですら知らない秘密が隠されているのかもしれない。

ジャクスン博士が彼というファティマに何を望み、何を託したのは、物語の中で追々明らかになっていくことだろう。



イメージカットとしてたびたびプラスチック・スタイルの零が登場するが、作中で着用されることはないだろう。零は窮屈なものを好まないし、零の艶かしい姿が気になってブッカー少佐は仕事に手がつかなくなってしまう。特殊戦のファティマたちは、これらの他に揃いのスーツも持っているはず。刃物とブーメランを合わせた特殊戦の紋に漢数字で騎乗するMHの番号が入る。